

## X 帯サブ・ワーキング・グループにおける検討状況

### 1 気象情報のユーザーからの要望の把握と整理

第 4、5 回の X 帯サブ・ワーキング・グループにおいて、各分野の気象情報のユーザーから、気象情報の活用や気象レーダーに対する要望や期待する事項の聞き取りを行った。

### 2 9.4GHz 帯と 9.7GHz 帯の使い分けのあり方

気象レーダーの使い分けについては、諸元によって「高機能型」と「汎用型」で区別することとし、それぞれの共用条件について、現在、検討を行っている。

### 3 X 帯気象レーダーの技術的条件に関する諸元

現在、諸元や根拠等について検討を行っており、第 6 回の X 帯サブ・ワーキング・グループで諸元の素案として、気レ作参 5-3 を提示したところである。今後、諸元を確定させるため、引き続き検討を行う。

### 4 気象レーダー間の共用検討

「高性能型」「汎用型」を含め、気象レーダー間での共用条件や、将来の配置計画に対しどの程度の気象レーダーが設置可能かを把握するため、現在、机上計算による検討を実施しているところである。

### 5 9.4GHz 帯の共用システム（船舶レーダー、航空機レーダー、衛星放送受信設備）との検討の状況

#### (1) 船舶レーダー

検討の方向性は以下のとおりで、引き続き検討を行う。

ア 気象レーダーに「PRF を時間変動させる機能」を具備することの実現性の検討を行う。

イ PRF を時間変動させることに代わる、共用条件の検討を行う。

なお、「イ」について、机上計算の上では、設置場所や周波数での棲分けが困難である見通しのため、船舶レーダー（電子管型・固体素子型）と気象レ

ーダーとの間で、干渉が発生しないための「運用条件」等について、実機試験により検討を行っている。

## (2) 航空機レーダー

航空機レーダーに対して干渉を与えない条件について、航空機レーダー関係者と検討を行い、気象レーダーに割当て可能な周波数の条件を算出した。今後、実機試験により、当該条件の妥当性について確認を行う予定である。

## (3) 衛星放送受信設備 (BS/CS)

現在、衛星放送受信設備の関係者と、共用検討に関する試験内容やスケジュールについての合意を得たところである。今後、詳細を確認した上で、実験を行う予定である。

9. 4GHz 帯においては、特に船舶レーダーとの共用条件を慎重に規定する必要があることから、今後、時間をかけて検討を行うことを想定している。なお、衛星放送受信設備 (BS/CS) については、9. 7GHz 帯にも関係 (CS) することから、今後、先行して共用検討を実施する。

## 6 9. 7GHz 帯の共用システム (沿岸監視レーダー) との検討の状況

沿岸監視レーダーとの共用検討について、必要な離隔距離を机上計算により試算した。その結果、離隔距離のみでの共用は困難である見通しとなったため、今後、実機を用いて干渉状況の実態 (許容できるレベルかを含む) を確認する。

## 7 占有周波数帯幅の測定法

気象レーダーの占有周波数帯幅の測定において、測定器の分解能帯域幅 (RBW) の設定値によって測定値が変化することが判明した。当該測定法を確立するため、RBW の設定値を含め、現在、検討を行っているところである。

## 8 その他

周波数の許容偏差については、大幅に改善できることから、検討を行う予定である。